

事例1

< 事例概要 >

・脳梗塞による左上下肢不全麻痺、構音障害でリハビリ入院中の 80 歳代の患者。死亡時画像診断 (Ai) 無、解剖 無。

・転倒・転落歴 有。抗凝固薬、睡眠薬内服中。意思疎通は可能。頻尿・夜間排泄行動有。

・転倒・転落リスク評価 実施。予防対策として、ベッドの高さを調整、3 点柵を使用。

・入院 16 日目の明け方、ベッド足元に右側臥位で倒れている状態で発見。声掛けに反応あり、指示動作は可能。1 時間後に指示動作不可能となり、その 1 時間 30 分後に CT 実施。両側大脳部分の急性硬膜下血腫、外傷性くも膜下出血と診断。その後、複数回嘔吐あり、救急搬送。搬送先の CT で出血増大、脳ヘルニアを認め、転倒・転落 13 日後死亡。